令和８年２月１５日開催　市長と語る！新タウンミーティングの概要

１　日程等

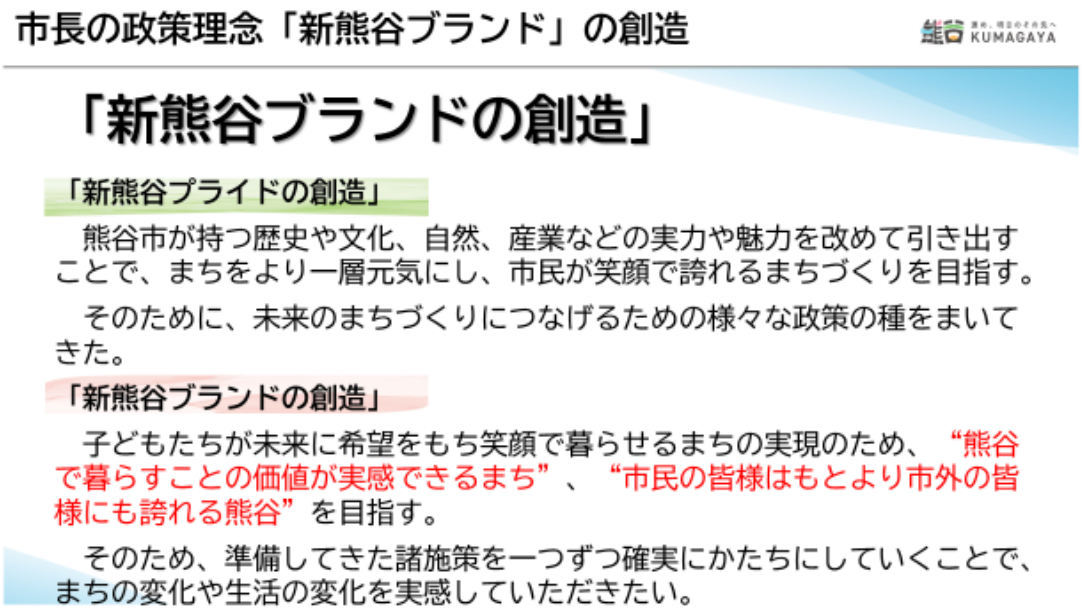
（１）開催日　令和 8 年 2 月 15 日（日）午前 10 時開会（午前 11 時 40 分閉会）

（２）会　場　商工会館　大ホール

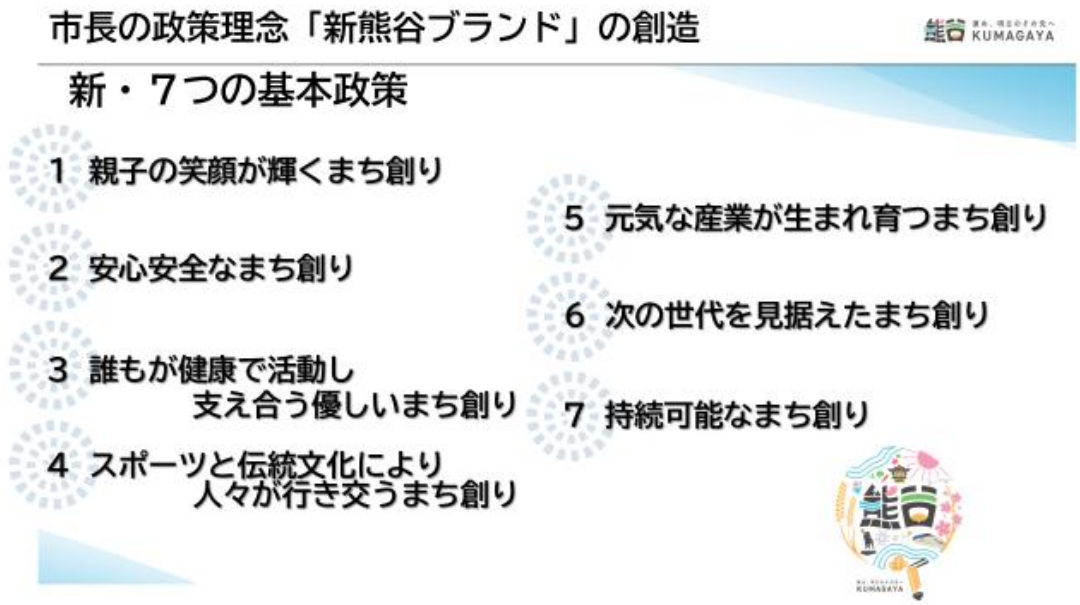
（３）テーマ　「新熊谷ブランドの創造」と新たな７つの基本政策

２　市長説明の概要

「新熊谷ブランド」の創造



新・７つの基本政策



①親子の笑顔が輝くまち創り

令和７年度の４月１日から、市の政策によって０～２歳児の保育料の無償化を実施していますので、熊谷市は小学校に上がるまで保育園は完全無償化になっています。

また、国の予算ですが、小学校給食無償化をしっかり市として担当します。

中学校の給食は無償化になっていませんが、既に給食費の値上げをするはずだった分は市で負担していますので、令和８年度についても、継続して実施したいと思います。

令和８年度には、こども誰でも通園制度の補助というのが始まります。１回当たり 300 円というものですが、熊谷市では、半額の 150 円を補助して、１回 150 円ということで進めています。「子育てをするなら熊谷市」という思いを皆さんにもご理解をいただきたいと思っています。

また、生後１か月児に対する健康診査を実施します。

（**地域保健課**）生後１か月児に対する健康診査は、１０月からの実施を予定しており、現在準備中です。

〇子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」

今年の４月、気象台と石原小学校の間にある広い蚕業試験場の跡地に子育て支援・保健拠点施設がオープンします。愛称を募集したところ、「くまキッズ」になりました。保育所、児童クラブ、こども館、保健センター、休日・夜間急患診療所があります。基本的には２階建てで、低層で皆さんに利用しやすい環境を作っています。あわせて、時間帯にもよりますが、19 時以降からは、集会

室や、防音を備えた音楽室が２部屋ありますので、ご利用いただきたいと思っています。保健センターや休日・夜間急患診療所、保育所などを１か所にまとめることで、ワンストップで子育てのお悩みを相談ができる環境を作りました。



〇小・中学校体育館空調設備設置

　近年、夏の気温が体温を超える状況が続いており、市内全小・中学校の体育館の空調設備を令和８年度から４年間で実施します。まずは令和８年度に石原小・久下小・奈良小・妻沼小・江南北小・中条中・別府中・大里中で実施します。

　夏場の運動環境整備も目的の一つですが、防災・減災という観点から避難所としての利用を考えたときに、夏の暑い中や冬の寒い時期に体育館で過ごすというのは厳しいと思われます。体育館に空調を入れることで、災害の際にも、安心して過ごせる避難所として利用していただくことを見据えた取組となっています。

〇新熊谷学校給食センター

　既にある給食センターやその他の給食施設が老朽化してきていますので、給食センターの建て替えにも取り組んでいます。令和９年２月頃から本体工事を着工して、令和 10 年９月に供用を開始する予定です。東京オリンピックから取り入れられたＨＡＣＣＰという衛生管理手法にも対応するほか、アレルギーへの対応、また、給食費や給食内容の公平性、今まで以上に、しっかりとした設備の中で、安心安全な給食を提供する環境を作っていこうと思っています。特に、今まで熊谷の給食センターは、自分のところでご飯が炊けなかったので、

どうしても米飯のときには、少し冷めてしまいます。新しい給食センターで、ご飯も炊けることになると、温かいご飯はもちろん、それ以上に例えば、炊き込みご飯だとか、少し目先の変わったメニューも提供でき、それとあわせて、災害のときにも、食事を提供することができるようになります。

今、子どもが減っている中で、大きな給食センターを作ることに意見もありますが、まずは市全域に配食できることが第１で、少しずつ、もしも子どもが減った場合には、高齢者の方への配食サービスなど、有効な活用法を検討しながら整備を進めていきたいと思います。



②安心・安全なまち創り

〇防災関係

令和８年度に小学校・中学校に防災ノートを配り、お子さんたちに災害の怖さとともに、防災についての知識を得ていただく防災ノート導入事業にも取り組みます。

また８月 29 日に九都県市防災訓練をスポーツ文化公園で開催しますので、もし自治会長さんがこの中においでで、お声がかかりましたら、ご出席をいただけたらありがたいと思っています。

〇治水対策

治水対策ということで、新星川の改修工事をさせてもらっています。ラグビーロード部分の工事で大変ご迷惑をおかけしていますが、治水面での向上を図るため、今後も新星川改修事業を進めます。

また、荒川・利根川の堤防強化ということで、今、県・国とも話をさせていただきながら、特に荒川に関しては、堤防のかさ上げ、それから利根川に関しては、今度は利根川新橋と絡んできますが、利根川新橋の位置が決まると、次の段階として、強化堤防に進むことになろうかと思います。国への要望をしながら、この治水対策も取り組みたいと思います。

〇不妊治療

安心してお子さんを産んでいただける環境の整備のため、不妊治療に対する助成は、既にいくつかありましたが、今回は、交通費の助成を始めたいと思っています。

熊谷の交通費の助成については、動き始めたところですが、国の方も令和８年度からこの交通費の助成を１時間以上という長距離に対して開始します。熊谷市とすると、この不妊治療については、県外を含めた自治体との往復の交通費についての負担をさせていただきます。

〇任意接種費用助成事業

熊谷市は、もう一つの売りに任意接種費用助成事業があります。熊谷市としては、男子への HPV ワクチン接種費用助成事業を埼玉県内初ということで令和５年からスタートしていますので、引き続き、助成をさせていただきたいと考えています。小学６年生から高校１年生相当の男子が対象ですので、もし聞かれたら熊谷市にはこのような事業があることをお伝えしていただきたいと思っています。

〇歯科保健事業

歯科保健事業についても、今まで 10 歳おきだったものを 25 歳、35 歳も対象に加えます。

③誰もが健康で活動し支え合う優しいまち創り

〇乗合型オンデマンド交通

妻沼地区に300ｍを一つの基準にして約100ヶ所の停留所を作らせていただいて、そこに、ワンボックス型の車両を呼ぶことができるオンデマンド交通をスタートしました。２台のうち１台は車椅子にも対応できますので、移動が困難な方にはご利用いただきたいと思っています。オンデマンド交通は、妻沼から熊谷駅や八木橋には、直接行けません。妻沼には、太田熊谷線が通っていて、ここには多くのバスが通っています。これらの公共交通機関と共に地域の交通を支えるものとなっていますので、これから PR して、有効に利用していただ

ける方が増える、今その過渡期にあります。

〇地域包括ケアシステム

　地域包括ケアシステムの一環で民間事業者等のご協力をいただきながら、移動販売を実施しています。

　乗合型オンデマンド交通にも共通して言えますが、回数、エリアが広がっていくためには、皆さん方にご利用いただくことが重要です。



〇（仮称）第２中央生涯活動センター

　石原のかつて勤労会館のところに第２中央生涯活動センターの建築が始まっています。令和９年１０月オープン予定です。

　勤労会館に行ったことある方はご存知だと思いますが、出入口が狭かったです。まずは出入口のスペースを広く確保し、出口については、赤城神社との間に道路と水路があり、水路にも蓋をかけ、広くして、駐車場もより多く確保して、車での出入りもスムーズに、安心して使える施設にします。今まで勤労会館で催し物があると駐車場で皆さん苦労したと思いますが、解消に繋がるものと考えています。



④スポーツと伝統文化により人々が行き交うまち創り

〇プロスポーツチームと連携したまちづくり

熊谷市には、埼玉ワイルドナイツ、ちふれ AS エルフェン埼玉、埼玉武蔵ヒートベアーズ、アルカス熊谷があります。まずはスポーツに親しむ環境を作らせていただきたいと思っています。

スポーツチームのほか、熊谷市ではグライダーが有名なスポーツです。妻沼のグライダー滑空場の滑空回数は日本一であるので、そういったものも含めてスポーツと連携したまちづくりを進めていきたいと思います。

〇マンガ形式のブックレット

熊谷のことをもっと分かってもらい、自慢できる歴史を理解していただくため、「直実・蓮生物語」や「斎藤実盛と妻沼聖天山」を市内の小・中学校の生徒に配付しました。駅の観光案内所、八木橋６階須原屋、図書館などで１冊 500 円で販売しています。

荻野吟子について最初に出したブックレットは、熊谷女子高校の生徒さんが書いてくれたもので、埼玉県が作ったものです。こちらも熊谷の小・中学校に配らせてもらいましたが、漢字が多く、小学校の低学年の子にはちょっと難しいということで、もう一度、この荻野吟子を題材に、小学校の低学年のお子さんたちにも理解しやすい本の制作に取り組む予定です。

また、今年の３月に、「友山・武香物語」を刊行します。



〇荻野吟子

荻野吟子にゆかりのある北海道のせたな町、それから隣の今金町を訪問し、一緒に顕彰をしていこうということで、合意をさせていただきました。今年に入ってから、荻野吟子のお墓がある雑司が谷霊園のある豊島区、荻野吟子が最初に診療所を開設した文京区、北海道から帰ってきて、診療所を出した墨田区などを訪問しました。関係自治体と連携を深めて、一つの力にして、外に向かって発信をさせていただきたいと考えています。

（商業観光課）令和７年度末に、官民協働の『“日本で最初の公許女性医師”「荻野吟子」顕彰推進協議会』を立ち上げました。

今年の秋に劇団シナトラにさくらめいとで荻野吟子の劇をやっていただいて、また、荻野吟子のシンポジウムを開かせていただきたいと考えています。熊谷市の中だけではなくて、外に発信をして、新熊谷ブランドに繋げていきたいと思っています。



⑤元気な産業が生まれ育つまち創り

〇企業誘致

企業誘致セミナー（東京）

首都直下地震のリスクを見据え、第二のオフィスとして大阪や福岡を選ぶ企業がありましたが、近年は南海トラフ地震の影響も懸念されるようになっています。そうした中、企業から「安心して第二のオフィスを構えられる場所はないか」との声を受け、本市への企業立地を促進するため、東京で企業誘致セミナーを開催しました。

企業情報交換会（大泉町）

太田市・大泉町・千代田町とは、しっかり地域連携していくべきだと考え、連携を深めています。特に大泉町には大きな企業が数多く立地していることから、私自身も企業情報交換会に出向き、企業の皆さんに直接 PR をしてきました。こうした取組を進めているのは、県企業局との共同事業として、吉岡工業団地の隣接地で約 18 ヘクタールの新たな産業団地の整備を進めているからです。そこへ企業に立地していただき、市民の皆さんの安定した雇用の確保につなげていくため、ビジネスマッチングの場も活用しながら、企業誘致に取り組んでいます。

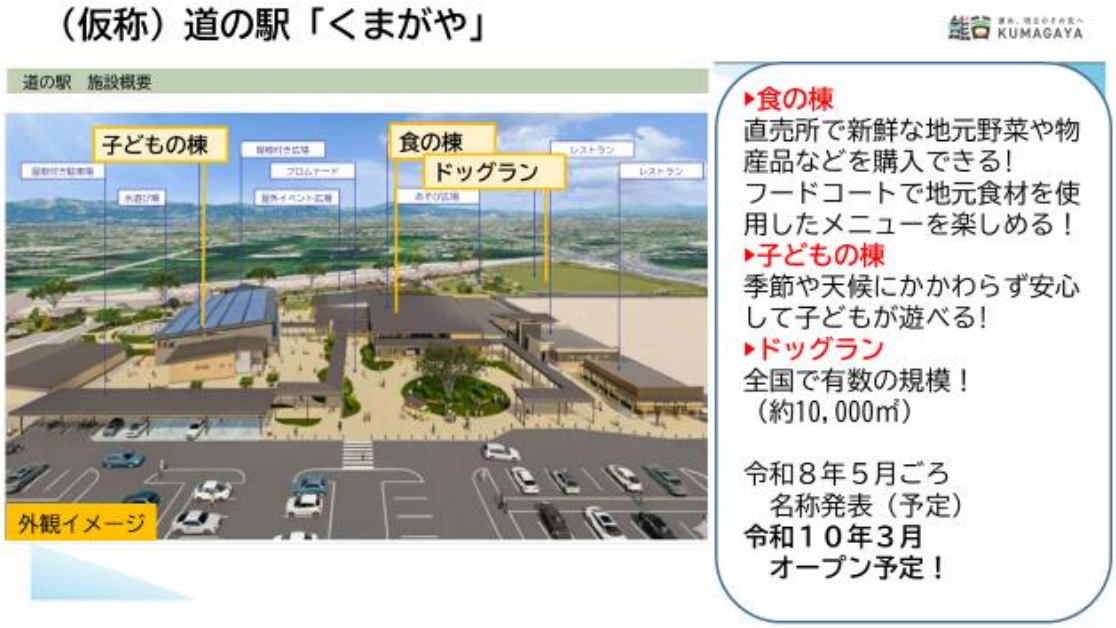
〇（仮称）道の駅「くまがや」

国道 17 号バイパスと国道 125 号の交差点付近に整備を進めています。

熊谷市は観光で訪れるだけではなく、市民に愛される道の駅を目指して、食

の棟のほか、子どもの棟というのがあり、ここには屋根付きの遊び場を作ります。暑い夏、寒い冬、風の吹いている日、それから雨が降った日にも、お子さんと一緒に楽しめる場所として考えています。また、調整池のエリアにドッグランを作ります。広さが約１万平方メートル。3000 坪になります。

　特色を持った道の駅ができますので、楽しみにしていただきたいと思います。



（**道の駅整備室**）令和８年４月２３日に、道の駅の名称が「道の駅くるん熊谷」に決定したことを公表しました。

〇熊谷ブランド「晴れまち」

　熊谷で生産される物のブランド化ということで、「晴れまちブランド」を作りました。農産物や工業製品も含め、三つの分野で、熊谷で作られるもののブランドとして、マークをつけ、市外の皆さんにも、熊谷の美味しくて安心な生産物を楽しんでいただける環境を作ります。



○産業拠点の整備

新たな産業拠点整備政策により、雇用の確保や定住の促進に取り組みます。

産業団地ができ、新たに企業が立地することで、安定した税収の確保もできると考えています。

⑥次の世代を見据えたまち創り

○新市庁舎・北部地域振興交流拠点

県と調整をしながら、熊谷市は市役所移転、県は北部地域振興交流拠点の整備ということで動き出しています。

場所は、この市役所通りと国道 17 号との交差点のコミュニティひろばで計画しています。

○星川周辺の取組

去年の秋に、星川を歩いた先の星溪園で「星溪園ガーデンカフェ」という取組を行いました。

庭園にある玉の池にミストを設置し、幻想的な雰囲気を作り、また普段はお茶席として使われることがほとんどだった松風庵にカフェを設置し、コーヒーを飲んでいただいたり、ケーキを食べていただいたり、連日たくさんの方にお越しいただきました。

併せて、星川沿いを周回するグリーンスローモビリティというものを走行させるなど、星川周辺の活性化を見据えての取組を行いました。



〇熊谷市荒川かわまちづくり

令和７年８月１日に、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録されました。

スポーツや散歩を楽しめるほか、水に親しんでいただく環境をつくり、あわせて、花火を見られるような階段状のコンクリート護岸の整備を国土交通省にお願いするなど、荒川の再整備を進めています。



〇「高速道路を熊谷へ」首都高速道路に接続する高規格道路の延伸

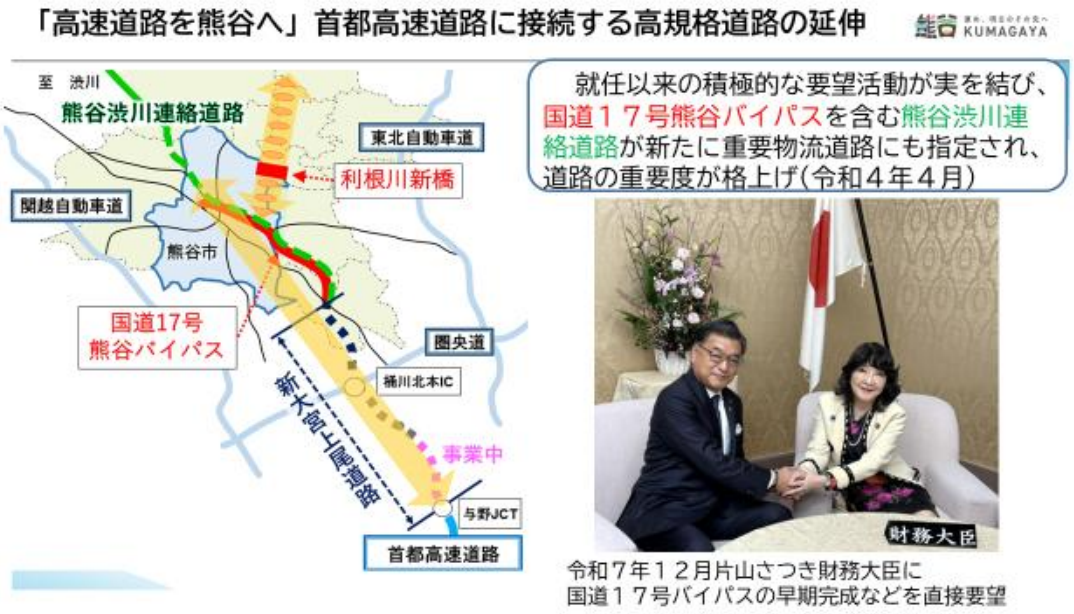
熊谷に首都高速道路ということで、県、国との関係も４年間、関係を深めてきました。去年 12 月に片山さつき財務大臣を行田市長と訪問するなど、関係自治体と連携し、熊谷渋川連絡道路の早期事業化を要望するなどの動きを見せています。

〇利根川新橋

令和８年度に都市計画決定ということで、橋の位置が決まります。位置が決まると、次は強化堤防の話になるので、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

千代田町、大泉町、太田市、足利市などの近隣の自治体と連携し、それぞれが発展していくための動脈にしていきたいと考えています。

熊谷市には新幹線も通っているので、利根川新橋や高速道路もしくは自動車専用道路ができたら、人物の流れが全て熊谷を経由するということになるので、交通の要衝としての熊谷の新しい顔を作る取組にもなっています。



〇スマートシティ

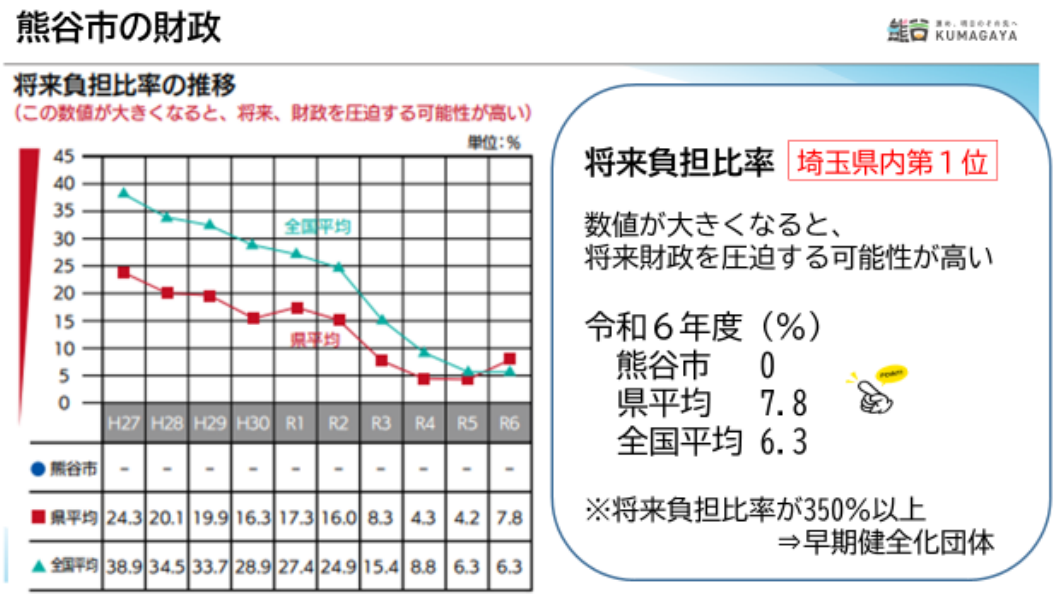
デジタルを使って、よりこの熊谷で暮らすことをどう快適にしていくかという取組です。先ほどの星川での取組もその一環です。

その中でも LINE ポータルアプリ「クマぶら」を活用して、クマＰＡＹや、クマポを使っていただいたり、また、熊谷の情報を発信していくので、ぜひ使っていただきたいと思います。

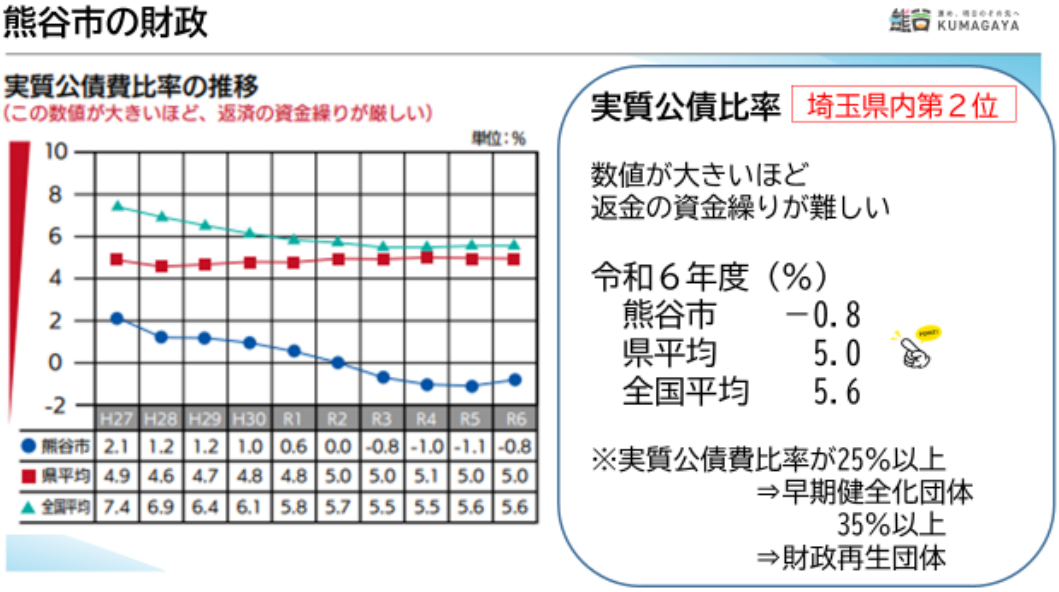
⑦持続可能なまち創り

〇熊谷市の財政

将来負担比率は熊谷市が、ゼロで、この負担比率自体は埼玉県で第１位という状況になっています。



熊谷市は実質公債費比率がマイナスであり、今のところは、借金で首が回らなくなるということはありません。



熊谷市の当初予算が約 800 億円です。市債残高（借金）が昨年段階では約 300 億円で、今年はくまキッズができますので、約 350 億円まで上がる見込みです。

ここまで借金をしてきたものの多くは、７割が地方交付税で措置される「合併特例債」という有利なものを選択するなど、適時適切に採用する形で取り組んできました。

財政調整基金は約 100 億円あり、県単位でみると、人口が多くても、この財政調整基金というのが、10～20 億円というところがあります。

そこから考えると、熊谷市の財政についてはまだまだ安心をしていただきたいですが、熊谷市は、市役所、市民体育館など、耐震もなく、耐用年数もあるため、建て替えなければなりません。そういった建物が熊谷市内に数多くあるので、それをしっかりと建て替えて、しっかりと次の世代に渡すことで熊谷の暮らしやすさというのは作られてくると思います。

３　意見交換・質疑応答の概要

市民）

熊谷学校給食センターについて、ＨＡＣＣＰは非常に項目が多いので、現場の人の働く側の軽減も見据えた上でＤＸ化をして、チェック漏れのないような、安全の食の提供に繋げていただきたい。

市長）

やり方については、様々な方法があると思います。各種データの管理・分析など、事業全体を通してＤＸにしっかりと取り組んでいきたいと思います。

市民）

帯状疱疹、予防接種について、効果的なものは当然、費用の高いものになるが、効果面を見据えて考えていただきたい。

市長）

帯状疱疹については、熊谷市は２種類のワクチンを打てるようになっていますので、それは選択で使っていただければと思います。

ただ、接種回数や金額が種類により異なるので、どちらのワクチンを接種するかは、個人の判断になるかと思います。

市民）

県内全体ではこの福祉有償運送事業者で生活サポートを取り扱っている事業者は増加傾向にあるという。しかし、熊谷市内での事業者が非常に減っており、市外の事業者に頼らざるを得ないような状況もあるようですが、なかなか受け入れはなっていない。

さらに、タクシー券はタクシー事業者のみが扱える制度となっており、障害特

性を理解して、乗降介助を行う福祉有償運送事業者は対象外となっている。
　皆が安心して移動できることを確保していただきたい。
市長）
　介護タクシーも含めて、障害のある方や高齢者がしっかりと移動できる環境についても検討させてもらいたいと思っています。
　熊谷市の事業者さんが減ってきていることについては、他の自治体の継続の状況も確認をさせていただきながら、どのような対応ができるのか、検討させていただきたいと思います。

市民）
　新熊谷学校給食センターについて、全てのアレルギー対応は無理とお伺いしました。段階的にやっていくけれども、現在は子どもにアレルギーがあるので結局今給食はお弁当で、毎日お弁当を作って対応している中で、周囲で給食費の無償化や増額分を市が負担している話を聞くとうちは全額自分負担なのにと感じてしまう。
　これから先アレルギーの子どもはどんどん増えてくると思うので、個別のアレルギーだけではなく、まんべんなく、いろんなアレルギーに対応できる給食センターにしてもらえたら良いと思う。
市長）
　給食センターについては、確実に良くなりますので、今のご意見をいただきながら、アレルギー対応についての拡大というのは検討させていただきたいと思います。

（教育総務課）令和８年４月以降の小学校給食費無償化に伴い、学校給食を喫食する児童の保護者と、恒常的に学校給食を喫食しない児童（非喫食者）の保護者との間における経済的利益の均衡を図るため、重度のアレルギーその他の疾患又は宗教上の配慮が必要というやむを得ない理由により小学校給食を食せず、毎日自宅からお弁当を持参している児童の保護者に対し、給付金を支給します。

市民）
　道の駅で子どもが遊べる子どもの棟を作ると説明がありましたが、このご時世、ちょっと危ないことも多く、ボール遊びが禁止、遊具もどんどん撤去されてしまっており、子どもたちの遊べる場所、集える場所、憩いの場所がどんどん減ってきてしまっています。
　道の駅のトランポリンの遊具は中学生では使えないと感じて、小中学生の思春期の居場所についても考えていただけたらありがたいかなと感じました。

市長）
　北部地域交流拠点の１階部分は県立図書館のほか、椅子やテーブルを置いて、市民の皆さんがコミュニケーションできる場を作ろうということで検討いただいているようですので、そういった部分では１か所増えるという気がしています。
　それと、くまキッズの中にこども館ができ、それからお子さんのコミュニケーションができる空間も作りますのでそういったところをご利用いただけたらと思います。

市民）
　熊谷の財政について今は健全な経営をされているとお話を伺いしましたが、最後におっしゃっていた懸念の通りにどんどん老朽化する建物が増えてくる。
　市民体育館の方もワークショップでどんな体育館を建てるのかという話をしているのを小耳に挟んでいます。
　今後その建て替えなければいけない建物が多い中で、例えばその市民体育館をすごく大きいものにするという話は伺っています。そういったものを作って他のものも全部整備していったときに、今後熊谷のお金はどうなるのかなと話を伺っていて心配になりました。
　今後どのように進めていきたいとお考えなのかなとここで質問させていただけたらと思います。
市長）
　まず体育館の話がありましたが何も決まっていません。今、ワークショップをやっていまして、皆さん方のご意見を聞いて、作っていきたいと思います。特に熊谷のお子さんたちが屋内でやるバスケットやバレー、バドミントン、卓球などスポーツの大会が、まずは今までの体育館に負けないぐらいスムーズにできる体育館にはしたいと思っています。
　体育館を建てないという考えもありますが、体育館がなくなると、災害時の避難所がなくなってしまいます。熊谷にも大きな地震が想定されます。
　基本的に避難所は、どこの方はどこに避難しなきゃいけないってことはありませんが、高齢者の方やお子さんが避難するのは、家に近いところが良いと思います。
　補助金などを活用して、有利な条件で実施を検討し、財政負担を少なくなるように取り組んでいこうと思っています。